

知識探求者の諸作法

آداب العالم والمتعلم

[اللغة اليابانية]

著者

ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・アッ=トゥワイジリー

翻訳者

サイード佐藤

校閲者

ファーティマ佐藤

1428-2007

www.islamhouse.com

知識探求者の諸作法

- 知識とはイバーダ（崇拜行為）です。そしてイバーダ（崇拜行為）にはそれが受け入れられるための、2つの条件があります：つまり①至高のアッラーに対する
イフラス（真摯さ）と、②アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の手法に則ることです。そして学者は預言者たちの後継者、と言われますが、知識にも様々なカテゴリーがあります。その中で最も位階が高く、栄誉高く、純粹なものが、預言者たちと諸使徒が提供したところのアッラーとその美名、その属性、その行為、その宗教、その法規定に関する知識なのです。

至高のアッラーはこう仰られました：-
そしてアッラーの他に真に崇拜すべきものがないことを知り、あなたと男女の信仰者たちの罪を乞うのだ。アッラーはあなた方の（現世における）一挙一動も、あなた方の（来世における）行き先もご存知なのである。、（クルアーン47：19）

- 知識にも諸作法があります。その中には知識自体に関するものもあれば、それを学ぶ者に関するものもあります。そして以下に示すものはそれらに関する概略なのです。

1-教師の諸作法

- 謙遜と慎み深さ：

至高のアッラーはこう仰られました：-
そしてあなたに従う信者たちに慎み深くあれ。、（クルアーン26：215）

- 高い人格：

1-至高のアッラーはその預言者にこう仰られました：-
そしてあなたはこの上ない人格を備えている。、（クルアーン68：4）

2-至高のアッラーはその預言者にこう仰られました：-
許しの心を持ち、善を命じ、無知な者たちから遠ざかれ。、（クルアーン7：199）

- 人々が飽きたり離れて行ったりしないよう、知識と訓戒の伝授において適切な時節を選ぶこと：

イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は私たちが退屈するのを嫌って、

私たちに訓戒を与える（適当な）時を日々の中から選んでいました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹）

●（教授において）十分な声を上げ、人々が理解出来るよう2回3回と繰り返すこと：

1－アブドッラー・ブン・アムル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちのある旅路において、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が私たちの後方を歩んでいたことがありました。そして彼が私たちに追いついた時、サラ（礼拝）の時間が来て、私たちはウドゥー²をしました。そして私たちが足を（きちんと洗わずに）軽く撫でて済ませようとする時、（預言者は）大きな声で2回か3回こう言いました：“地獄の業火に晒される踵に、災いあれ³。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁴）

2－アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は何か話す時には、人々が理解出来るよう3回繰り返したものでした。そして人々のもとを訪れた時には、彼らに3回挨拶したものでした。（アル＝ブハーリーの伝承⁵）

●忌むべき物事を眼にしたり耳にしたりした時、訓戒や教授において怒りを表現すること：

アブー・マスウード・アル＝アンサーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ある男がいました：“アッラーの使徒よ、何某は礼拝（を率いる際にそれ）をととても長引かせるので、私は（集団）礼拝に参加するのが億劫です。”そして私はその日ほど、預言者が訓戒において激しい怒りを表したのを見た事はありませんでした。彼は言いました：“人々（礼拝を率いる者たち）よ、あなた方は（礼拝者たち）に嫌な思いをさせている。人々を礼拝で率いるのなら、軽く済ませるのだ。彼らの中には病人や弱者や用事のある者たちもいるのだから。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁶）

●時には質問された以上のことを答えること：

イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、ある男がアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）に訊ねました：“ムフリム⁷は何を衣服としてまといますか？”アッラーの使徒は言いました：“シャツもターバンもズボンもフード付きのローブもまどうのではない。また靴のない者以外は、靴下も履いてはならない。そのような者（靴のない者）は靴下を履き、それをくるぶし下まで切り取るのだ。そしてサフランや香草（

¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（68）、サヒーフ・ムスリム（2821）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

² 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。

³ 訳者注：つまり足も含め、洗浄すべき体の部位をきちんと洗うようにとの注意を意味しています。

⁴ サヒーフ・アル＝ブハーリー（60）、サヒーフ・ムスリム（241）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

⁵ サヒーフ・アル＝ブハーリー（95）。

⁶ サヒーフ・アル＝ブハーリー（90）、サヒーフ・ムスリム（466）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

⁷ 訳者注：巡礼を行う時の特別な状態にある者。

つまり香水)のついた衣服もまもってはならない。”」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承⁸⁾)

● その知識を試すために、教師が質問すること：

イブン・ウマル(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました：「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました：“木々の中には葉の落ちることのない、1本の木がある。そしてそれはムスリムのようである。それが何か話してくれ。”すると人々の考えは、砂漠の木々に向かいました。私(イブン・ウマル)はそれがナツメヤシの木であると思いましたが、羞恥心ゆえにそれを言い出すことが出来ませんでした。それから(教友たちは)言いました：“アッラーの使徒よ、それが何なのか教えて下さい。”(預言者は)言いました：“それはナツメヤシの木である。”」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承⁹⁾)

● 一般人に向けて間際らしい事を言わないこと。また誤解される恐れがあるのなら、ある種の人々にはある種の知識には言及しないでおくこと：

アナス(彼にアッラーのご満悦あれ)によれば、アッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)とムアーズは乗り物用の家畜に相乗りしていました。「(預言者は)言いました：“ムアーズ・ブン・ジャバルよ。”(ムアーズはこう)3回言いました：“はい、アッラーの使徒よ。何でも仰せつかわして下さい。”(預言者は)言いました：“誰でも心から正直に「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥラッスールッラー(アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはそのアッラーの使徒である)」と証言する者は、アッラーが彼に地獄を禁じられるであろう。”(ムアーズは)言いました：“アッラーの使徒よ、このことを人々に伝えて喜ばせてもよいでしょうか？”(預言者は)言いました：“(そうするのではない、彼らは)それに頼り切って怠けてしまうからな。”そして預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の死後、ムアーズは自らが罪深くあるのを恐れ、そのことについて人々に伝えました。」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承¹⁰⁾)

● もしそれよりも悪いことが起きる恐れがあれば、ある悪事の矯正をひとまず放っておくこと：

アーイシャ(彼女にアッラーのご満悦あれ)によれば、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は彼女にこう言いました：「アーイシャよ、もしあなたの民がジャーヒリーヤ(イスラーム以前の無明時代)から(イスラームへと)抜け出たばかりの者たちでなければ、私はカアバ神殿を一旦壊すよう命じ、そこから出されたものをそこへと戻し、そして地面にくっつけ、東西に2つの門を付け、イブラーヒーム(がそれを建設したところ)の基盤の上にまでそれを拡張したことであろう。」(アル=ブハーリーとムスリムの伝承¹¹⁾)

⁸ サヒーフ・アル=ブハーリー(1542)、サヒーフ・ムスリム(1177)。文章はムスリムのもの。

⁹ サヒーフ・アル=ブハーリー(61)、サヒーフ・ムスリム(2811)。文章はアル=ブハーリーのもの。

¹⁰ サヒーフ・アル=ブハーリー(128)、サヒーフ・ムスリム(32)。文章はアル=ブハーリーのもの。

¹¹ サヒーフ・アル=ブハーリー(1586)、サヒーフ・ムスリム(1333)。文章はアル=ブハーリーのもの。

● 男女別に教授すること：

アブー・サイード・アル＝フドゥリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「女性たちが預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）に言いました：“あなたを男性たちに取られてばかりなので、1日だけでも私たちのために当てて欲しいのですが。”それで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はある日約束をし、彼女たちと会う機会を持ちました。彼は彼女たちに訓戒を与え、命じましたが、その中でこのように言いました：“3人の子供に先立たれた女性は、彼らが彼女のために地獄を遮る覆いとなってくれるだろう。”するとある女性が言いました：“（先立たれたのが）2人だったらどうですか？”（預言者は）言いました：“2人でも、である。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹²）

● 昼夜を問わず、滞在中でも旅行中でも人々に訓戒を与え、教えること：

1ーウンム・サラマ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）はある晩起き出すと、こう言いました：“崇高なるアッラーに讃えあれ。今夜（私に）啓示された（近く起こるであろう）試練の何と恐ろしいことか。そして何という数々の（恩恵という）宝庫の（扉）が（近く）開かれることか。私の妻たちを起こすのだ。現世で上等な衣をまとっている女性も、来世では素っ裸かもしれないのだから。”」（アル＝ブハーリーの伝承¹³）

2ーイブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はその晩世に、イシャー（夜の礼拝）を率いました。そしてそれが終わると、立ち上がって言いました：“あなた方はこの日の夜を見たか？現在地上にある者たちの誰も、100年後には生き長らえてはいないのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹⁴）

3ームアーズ・ブン・ジャバル（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）と共に、“ウファイル（灰色）”と名付けられた1頭のロバに同乗していました。そして彼は言いました：“ムアーズよ、アッラーのそのしもべに対する権利と、しもべのアッラーに対する権利を知っているか？”私は言いました：“アッラーとその使徒がご存知です。”（預言者は）言いました：“アッラーのそのしもべに対する権利とは、しもべがかれを崇め、そこにおいて何ものをもかれと共に配さないことである。そしてしもべの偉大かつ荘厳なるアッラーに対する権利とは、何ものをもかれと共に配さなければ、かれがしもべを罰せられない、ということである。”私は言いました：“アッラーの使徒よ、このことを人々に伝えて喜ばせてもよいでしょうか？”

（預言者は）言いました：“（そうするのではない、彼らは）それに頼り切っただけで怠けてしまうからな。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹⁵）

¹² サヒーフ・アル＝ブハーリー（101）、サヒーフ・ムスリム（2633）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

¹³ サヒーフ・アル＝ブハーリー（115）。

¹⁴ サヒーフ・アル＝ブハーリー（116）、サヒーフ・ムスリム（2537）。文章はムスリムのもの。

¹⁵ サヒーフ・アル＝ブハーリー（2856）、サヒーフ・ムスリム（30）。文章はムスリムのもの。

● 集まりの場の締めくくりに言うドゥアー（祈願）とズィクル（唱念）：

1ーイブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、教友たちのために（次のような）ドゥアー（祈願）の言葉でもって祈願するまでは、集まりの場を立つことは滅多にありませんでした：“アッラーよ、私たちとあなたへの不服従との間を阻む、あなたへの畏怖の念を私たちにお与え下さい。そして私をあなたへの天国へと到達させてくれる、あなたへの服従を。そしてあなたがそれでもって現世での災難を和らげて下さる、（あなたの宗教への）確信を。またあなたが私たちを生かし続けて下さる間、私たちにその聴覚と視覚と力を堪能させて下さい。そしてそれを末永く継続させて下さい。また私たちを抑圧する者たちにお報いを与え、私たちを敵に勝利させて下さい。そして私たちの宗教において災厄を被らせないで下さい。現世を私たちの最大の関心事や、学識の目的としないで下さい。そして私たちをいたわらない者を、私たちの統治者としないで下さい。”」（アッ=ティルミズィーの伝承¹⁶）

2ーアブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“下らない戯言の多い集まりに参加した者で、そこを立つ前に：「アッラーよ、崇高なあなたを賛美と共に讃えます。あなたの他に真に崇拝すべきものはないと証言し、あなたのお赦しを乞い、あなたに悔悟します。」と言った者は、その集まりにおいて起こった（罪深い）ことに対してのお赦しを得るであろう。”」（アフマドとアッ=ティルミズィーの伝承¹⁷）

2ー学徒の諸作法

● 学徒の座り方：

1ーウマル・ブン・アル=ハッターブ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちがある日アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）と共にある時、純白の衣服をまとい、漆黒の髪の人1人の男が私たちのもとに現れました。彼には旅の形跡はありませんでしたが、私たちの誰1人として彼を知る者はいませんでした。彼は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとまでやって来ると、彼の両膝を両膝につき合わせるようにして座り、彼の両手をその両腿の上に置きました・・・（アル=ブハーリーとムスリムの伝承¹⁸）

2ーアナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、ある時アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が外出した時、ア

¹⁶

良好な伝承。スナン・アッ=ティルミズィー（3502）、サヒーフ・スナン・アッ=ティルミズィー（2783）。サヒーフ・アル=ジャーミウ（1268）参照。

¹⁷

真正な伝承。ムスナド・アフマド（10420）、スナン・アッ=ティルミズィー（3433）、サヒーフ・スナン・アッ=ティルミズィー（2730）。文章はアッ=ティルミズィーのもの。

¹⁸ サヒーフ・アル=ブハーリー（50）、サヒーフ・ムスリム（8）。文章はムスリムのもの。

ブドッラー・ブン・フザーファが彼にこう質問しました：「私の父は誰ですか？」すると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「あなたの父はフザーファだ。」それから多くの者が彼を（好ましくない質問でもって）質問攻めにすると、（預言者は立腹して）言いました：「質問するがよい。」するとウマルは跪き、言いました：「私たちはアッラーが主であることに、またイスラームが宗教であることに、そしてムハンマド（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が預言者であることに満足しました¹⁹。」すると（預言者は）沈黙しました。」（アル＝ブハーリーの伝承²⁰）

● 学問の席やモスクにおける訓戒や唱念の場などに積極的に参加すること、及びそのような場で座るべき場所：

ウバイ・ワーキド・アッ＝ライシー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がモスクで人々と共に座っている時、3人の男たちがやって来ました。その内の2人はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとへと赴きましたが、1人は行ってしまいました。そして2人はアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとで立ち止まり、1人は人々の輪の中に空いている場所を見つけてそこに座り、もう1人は彼らの後ろに座りました。一方3人目の男はといえば、立ち去ってしまいました。アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（話し）終わると、言いました：「（件の）3人の男について話そうか。彼らの内の1人はアッラーの御許へと向かい、アッラーは彼を迎え入れた。もう1人は恥ずかしがったため、アッラーも彼から恥ずかしがられた。一方もう1人はといえば、背いて立ち去ったため、アッラーも彼から背き立ち去られたのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承²¹）

● 訓戒や唱念、学習の場などで輪になって座ること：

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「天国の楽園に入ったら、その草を大いに食むのだ。」（教友たちは）言いました：「天国の楽園とは何ですか？」（アッラーの使徒は）言いました：「ズィクル（唱念）の（集まりの）場である。」」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承²²）

● 学者や年長者を敬うこと：

¹⁹ 訳者注：別の伝承ではこの件に関して、クルアーンの﴿信仰する者たちよ、もしそれが明らかになれば、あなた方にとって都合の悪くなるようなことを質問するのではない。﴾という啓示が下ったとの言及があります。ウマル（彼にアッラーのお悦びあれ）の言葉は、アッラーとその使徒が伝えられるものだけで満足し、余計な質問はする必要がない、というムスリムとしての彼の理想的な態度を表明したものでした。

²⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー（93）。

²¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（66）、サヒーフ・ムスリム（2176）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

²²

良好な伝承。ムスナド・アフマド（12551）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3510）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2787）。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（2562）参照。

1-至高のアッラーはこう仰られました：-
信仰する者たちよ、あなた方の声を預言者の声よりも高く上げてはならない。そしてあなた方が互いにするようなあからさまな形で、彼にもの言っ
てはならない。そうすればあなた方が知らぬ間に、あなた方の行いは無に帰
てしまうであろう。、（クルアーン49：2）

2-アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：
「ある年配の男が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に会うため
にやって来ましたが、人々はすぐには彼のために席を空けませんでした。そ
れで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：“年少の
者を可愛がらず、年配の者を敬わない者は私たちの内の者ではない。”」（
アル=ブハーリーとアッ=ティルミズィーの伝承²³）

3-ウバーダ・ブン・アッ=サーミト（彼にアッラーのご満悦あれ）によれ
ば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：
「年配者を敬わず、年少者を可愛がらず、学者に対して礼を欠く者は、私
たちの内の者ではない。」（アル=ハーキムの伝承²⁴）

● 知識を備えた者の話を傾聴すること：

ジャリール（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッ
ラーからの祝福と平安あれ）は別れの説教の中で彼にこう言いました：“人
々の言うことをよく聴くのだ。”そして（続けて）言いました：“私の（死
）後、互いの首を討ち合う不信仰者に舞い戻ってはならない。”」（アル=
ブハーリーとムスリムの伝承²⁵）

● 知らないことを聞いたら、それを知っている者に分かるまで聞くこと：

イブン・アビー・ムライカは、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あ
れ）の妻アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）が何か彼女の知らない
ことを聞いたら、それが分かるまで追求し続けたこと、そして預言者（彼に
アッラーからの祝福と平安あれ）が「（審判の日）清算を受ける者は皆罰を
受ける。」と言ったことに関し、アーイシャが「至高のアッラーは-
それでその帳簿を右手に受け取る者は、その清算を易しくされるだろう。、
と仰られたではありませんか？」と問い、預言者（彼にアッラーからの祝福
と平安あれ）が「それは提示である。清算において議論される者は、破滅す
るのだ。」と答えたことを伝えています。（アル=ブハーリーとムスリムの
伝承²⁶）

● クルアーンやその他の学んだ知識を忘れないよう努力すること：

²³

真正な伝承。アル=ブハーリーのアル=アダブ・アル=ムフラド（363）、サヒーフ・アル=アダブ・アル=ムフラ
ド（272）、スナン・アッ=ティルミズィー（1919）、サヒーフ・スナン・アッ=ティルミズィー（1565）。アッ=
スィルスィラト・アッ=サヒーフ（2196）参照。文章はアッ=ティルミズィーのもの。

²⁴

真正な伝承。ムスタドゥラク・アル=ハーキム（421）、サヒーフ・アッ=タルギーブ・ワ・アッ=タルヒーブ（95
）。

²⁵ サヒーフ・アル=ブハーリー（121）、サヒーフ・ムスリム（65）。文章はアル=ブハーリーのもの。

²⁶ サヒーフ・アル=ブハーリー（103）、サヒーフ・ムスリム（2876）。文章はアル=ブハーリーのもの。

1-アブー・ムーサー（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「常にクルアーンと共にあれ。私の魂がその御手に委ねられているお方にかけて。それは縛り綱につながれたラクダよりも素早く逃げ去ってしまうものなのだから。」（アル=ブハーリーとムスリムの伝承²⁷）

2-アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）から2つの入れ物（つまり伝承のこと）を受け継ぎ、それらを守護した。その1つは既に伝えたものであり、もう1つはもし口外すればこの食道が断ち切られるところのものである²⁸。」（アル=ブハーリーの伝承²⁹）

● 集中し謹聴すること：

至高のアッラーはこう仰られました：-
実にその中には理性を備え、よく聴き、集中して理解に努める者たちへの訓戒があるのである。、（クルアーン50：37）

● 学究のために旅立ち、そこにおける困難に耐え、知識の更なる増加を求め、あらゆる状況において慎ましくあること：

イブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“ ムーサーがイスラエルの民の者たちといると、1人の男がやって来た。彼は（ムーサーに）言った：「あなたより学識ある者を知っているか？」 ムーサーは言った：「いや。」するとアッラーはムーサーにこう啓示された：「いや。われらがしもべハディルがいる。」 ムーサーは彼に会う方法を尋ね、そしてアッラーは1匹の魚をその目印とされた。

そして（アッラーはムーサーに）仰った：「あなたが魚を見失った時、（道）を戻すのだ。そうすればあなたは彼と出会えるだろう。」そしてムーサーは（小間使いの若者を連れて）海に魚の跡を追った。すると若者はムーサーに言った：「ほら、岩（の所）で休んだ時があったでしょう？ 私は（その時）魚を忘れて来てしまったのです。私にそれを思い出すのを忘れさせたのは、シャイターン（悪魔）以外の何者でもありません。」（ムーサーは）言った：「それこそ私たちの望んでいるもの。」そして来た足跡を辿って戻って行くと、2人はハディルを見つけました。これが偉大かつ荘厳なるアッラーが、その啓典の中で語られた出来事の1部です。”」（アル=ブハーリーとムスリムの伝承³⁰）

²⁷ サヒーフ・アル=ブハーリー（5033）、サヒーフ・ムスリム（791）。文章はアル=ブハーリーのもの。

²⁸

訳者注：「もし口外すればこの食道が断ち切られる」伝承とは、不正と抑圧の徒党の悪を批判する類のもので、彼らがそれを聞けば彼を打ち首にしてしまうような意味の伝承、あるいは余りに衝撃的な様々な恐怖を描写している審判の日や来世に関する伝承ではないか、といった説がありますが、真相は不明です。いずれにせよ、教友アブー・フライラ（彼にアッラーのお悦びあれ）はイスラームにおける大きな禁忌である「知識の隠蔽」を行うはずはありませんから、その伝承が全く知られていないものであることはないでしょう（イブン・ハジャール著サヒーフ・アル=ブハーリー解釈「ファトゥフ・アル=ブハーリー」参照）。

²⁹ サヒーフ・アル=ブハーリー（120）。

³⁰ サヒーフ・アル=ブハーリー（74）、サヒーフ・ムスリム（2380）。文章はアル=ブハーリーのもの。

● 知識を貪欲に求めること：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「誰かが言いました：“アッラーの使徒よ、審判の日にあなたのとりなしにおいて最も良き目を見るのは誰でしょうか？”アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“アブー・フライラよ、あなたのハディース（預言者の伝承）に対する熱意は知っている。私はあなたより先に、このことについて誰かが私に訊ねるとは思っていなかったのだ。審判の日に私のとりなしにおいて最も良き目を見るのは、「ラー・イラーハ・イッラッラー（アッラーの他に真に崇拝すべきものはない）」と心、あるいは魂から真摯に告白した者である。”」（アル＝ブハーリーの伝承³¹）

● 知識を書にしたためること：

1-アブー・ジュハイファは言いました：「私はアリーに言いました：“あなたの方のもとに本はありますか？”（彼は）言いました：“いいえ。クルアーンと、ムスリムが（それについて）理解したところのものと、これらの書だけです。”私は言いました：“これらの書には何が書いてあるのですか？”（彼は）言いました：“血債と捕虜（についての法規定）です。そしてムスリムが（報復刑において）不信仰者ゆえに死刑に処される事はありません。”」（アル＝ブハーリーの伝承³²）

2-アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）の教友たちの中で、彼からの伝承を私より多く伝える者はない。しかしアブドッラー・ブン・アムルだけは別だ。彼は（伝承を）書き留めていたが、私は書き留めていなかったのだ。」（アル＝ブハーリーの伝承³³）

● 自ら質問するのがためらわれるようなことを、誰か他の者に頼んで訊いて貰うこと：

アリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はよく（精液の発射に先駆けて出る）潤滑液を漏らしてしまう性質であったが、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）にそのことを訊ねるのは、彼の娘が私の妻であったゆえにためらわれた。それで私はアル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワドに頼み、そのことを彼に訊いて貰った。すると彼は（預言者がこう言ったと）言った：“男性器を洗浄し、ウドゥー³⁴をするのだ。”」

● イマームが説教する時、彼の近くにあること：

³¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（99）。

³² サヒーフ・アル＝ブハーリー（111）。

³³ サヒーフ・アル＝ブハーリー（113）。

³⁴ 訳者注：イスラームにおいて定められたある一定の形式における、心身の清浄化を意図した体の各部位の洗浄。

サムラ・ブン・ジュンドゥブ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「説教の場に参加し、イマームに近づくのだ。人間というものは（理由もなく善行から）遠ざかり続け、しまいには天国には入れさえすればいいとして、そこにおける位階においてまで控え目になってしまうのだから。」（アブー・ダーウードの伝承³⁵）

●（イスラーム法にかなう）集まりにおける諸作法：

1ー至高のアッラーはこう仰られました：-
信仰する者たちよ、集まりの場で「場所を空けて下さい。」と言われたら、場所を空けてやるのだ。（そうすれば）アッラーがあなた方のために（天国の）場所を空けて下さるであろう。そして（礼拝、あるいはジハードなどのために）「立ち上がりなさい。」と言われたら、立ち上がるのだ。アッラーは、あなた方の内で信仰する者たちと知識を与えられた者の位階を上げられる。アッラーはあなた方が行うことを実によく通曉されておられる。、（クルアーン58：11）

2ーイブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「自分がそこに座るために、誰かが座っているのを立たせてはいけない。しかし場所を広げ、（その者が座れるだけの）空き場所を作ってやるのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承³⁶）

3ーアブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「座っている場所から立ち上がり、またそこへ戻ってきた者は、その場所においてより優先権がある。」（ムスリムの伝承³⁷）

4ージャービル・ブン・サムラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私たちが預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のもとを訪れると、ある者たちは（集まりの場の）一番端にまで行って腰を下ろしたものです。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承³⁸）

5ーアムル・ブン・シュアイブ（彼らにアッラーのご満悦あれ）がその父、その父がその祖父、その祖父がアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによると、彼はこう言いました：「2人の男の間に座る時は、彼らの許しを請うのだ。」（アブー・ダーウードの伝承³⁹）

6ーアッ＝シャリード・ブン・スワイド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言い

³⁵ 良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（1108）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（980）。

³⁶ サヒーフ・アル＝ブハーリー（6270）、サヒーフ・ムスリム（2177）。文章はムスリムのもの。

³⁷ サヒーフ・ムスリム（2179）。

³⁸

真正な伝承。スナン・アビー・ダーウード（4825）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（4040）、スナン・アッ＝ティルミズィー（2725）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2193）。

³⁹ 良好な伝承。スナン・アビー・ダーウード（4844）、サヒーフ・スナン・アブー・ダーウード（4054）。

ました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）が私たちのもとにやって来た時、私はこのように座っていました：つまり左手を背中
の後方に回し、両手の掌でもって体を支えていました。すると彼は（私に）
こう言いました：“アッラーがお怒りになられた者たちの座り方をするのか？”」（アフマドとアブー・ダーウードの伝承⁴⁰）

7-イブン・マスウード（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「ア
ッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“あな
た方が3人である時、1人をそっちのけにして2人だけで内緒話をしてはいけな
い。そのようなことは彼を悲しませるであろうから。”」（アル=ブハーリー
とムスリムの伝承⁴¹）

⁴⁰

真正な伝承。ムスナド・アフマド（19683）、スナン・アビー・ダーウード（4848）、サヒーフ・スナン・アブー・
ダーウード（4058）。

⁴¹ サヒーフ・アル=ブハーリー（6290）、サヒーフ・ムスリム（2184）。文章はムスリムのもの。